



こげ茶色のガルバリウム鋼板の外壁に、広間の大きな木製窓がポイントになっている。庇や戸袋なども製作し、シンプルな形状の中に機能を併せ持つ外観となった。



2P) 板倉構法(JPウォール構法)でつくる木に包まれた空間。柱、梁、落とし込み板壁、化粧野地板、全てが構造材であり、仕上げ材となるのが大きな特徴。通常は漆喰壁を併用して仕上げる事が多いが、Oさんのお宅は機能美を生かした“すっぴんの木の家”を目指した。

上) 玄関ポーチと自転車置場を併せ持つ屋根付き屋外スペース。目隠しと風除けのために列柱と板塀を設け、それぞれの意匠を外観のアクセントにしている。



外観のイメージをわかりやすく表現するため、毎回スタディー模型をつくっている。屋根の形や全体のボリュームが一目でわかる。内部もつくり込んでいるので日当たりなども確認出来る。

お気に入りに入りに包まれた コンパクトな暮らし



完成現場報告 藤枝市 / 『蘭の家』

文・写真 / コロラボ 山崎健治

一昨年の冬、自然豊かな景色が残る藤枝市の住宅地に、Oさんご夫婦の木の家が完成しました。土地探しから建築まで共に行い、様々な条件や制約をクリアしながら、ギョウツと詰まった家づくりの期間を共有しました。Oさんご夫婦に初めてお会いした時の第一印象は、自分たちの世界観を持ったお二人だと感じました。個性的なかわいさな車にオシャレなお二人、また若く物静かなご夫婦でしたが、自分たちのライフスタイルをちゃんと持っている方たちだと思いました。具体的な家のイメージはまだ持っていなかったのですが、自然に囲まれた静かな地域を希望され、便利さよりも自分たちの時間を大切にしたい暮らしを強く望んでいました。

家づくりのスタートとしてまずは土地の情報集めから始めました。元々少し気になる土地の情報があり、相談を受けましたが、山に囲まれ崖の問題から断念。周辺の景色や場所の雰囲気は気に入っていたので、近い雰囲気の良い土地を探していくつか紹介をさせていただきました。土地のイメージと合わせて広さや価格、設備面や近所の様子なども検討しながら、希望に近い土地に出

会うことが出来ました。草が生い茂り全体的な感じが把握しにくい土地ではありましたが、日当たりも良くとても静か、山に隣接しているけど保護工事がされた安心の敷地ということで決定しました。草木に覆われていて一抹の不安はあったものの、整地をしてみると印象ががらりと変わり、広くて日当たりの良い、とても気持ちのよい気を感じられる土地になりました。

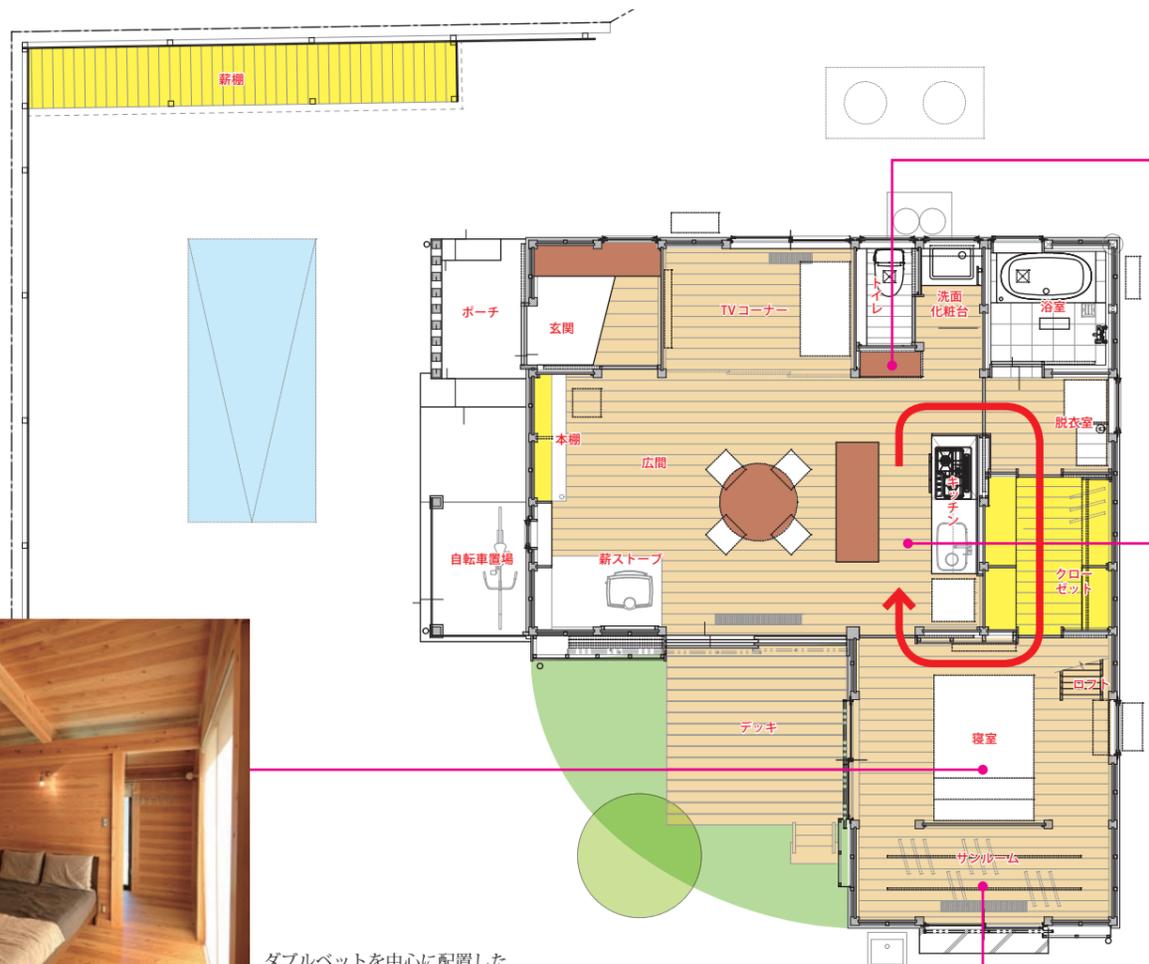
敷地も整い、いよいよ工事がスタート。お二人が望んだ家は文字通りの木の家。余分なものを省いた板倉構法による、コンパクトで実直な住まいでした。

使いやすい間取りと 機能的なスペース

Oさんの住まいは18・5坪の平屋のお宅です。通常のお宅と比べると小さな住まいですが、平屋というのがポイントで、横と縦に空間が広がり、伸び伸びとした印象の住まいになりました。また、機能面も充実した内容になっており、室内の物干しスペースを確保し、水周りや収納スペースの動線も考えられたプランになっています。通常コンパクトな設計を考えた時、広間やキッチンなどの広さを重視して収納や機能面のスペースを削減する事が多いと思いますが、Oさんのお宅は逆の発想をする事で広間やキッチンスペースに余分な物が出てこ

使いやすさと機能が ぎゅっと詰まった 平屋の間取り

18.5坪の平家空間の中に、使いやすい動線や機能が詰め込まれた間取り。キッチンから脱衣室、クローゼットを通して回れる動線は、日々の生活の流れに沿った自然の流れから生まれ、室内の物干しスペースや屋外の自転車置場があることで生活にゆとりが生まれる。自分たちの暮らしを見つめ、大切なもの、必要なものを選択した間取りはどこにも無駄がなく清々しい住まいになっている。



ダブルベットを中心に配置した寝室。木に包まれた寝室は香りも良く、最近の研究では、質の高い睡眠ができると再評価されている。



寝室の奥に配置した物干しスペース。長い造り付けの竿が2本掛かり、どんな天気の時も気にすることなく使えて便利と好評。



お気に入りの茶箱もキッチン横に配置し、食器や細かな道具入れとして利用している。好きな道具や食器をあえて出し、使いやすさと合わせて部屋の雰囲気や彩にもなっている。



キッチン道具の置き場所を細かく検討し、奥さんの使いやすい高さや場所に棚やステンレスパーなどを設けたキッチン。おばあちゃんのカウンターを使った作業台の下にも棚を設け、キッチンの内外から使いやすい位置を検討した。

1F 敷地平面図

は黒く変化していましたが、大きさもよくテレビ台としてお二人のアパートで使われていました。そのままでも雰囲気のあるカウンター材でしたが、思い切って削ってキッチンの作業台として使ってみる事になりました。せっかくだからという事で、カウンターを削る日に立ち会っていただき、そのノリで大工と共に作業台をお二人が製作する事になりました。物づくりが得意だった訳ではないと思いますが、大工の助けもあり立派な家具が出来上がりました。カウンター材を削ると今までは全く別の綺麗な色が出てきました。削りは素人には難しいので最後まで大工が行い、丸い目でお二人とも眺めていました。キッチンの横にはお二人が大切に持っていた茶箱置き場もつくりました。事前にサイズを計りピツタリと納め、おばあちゃんのカウンターと合わせて懐かしさのあるコーナーになりました。

機能的なスペースや動線といった間取りの他に、Oさんの家づくりの中で特に印象に残っている事がもう一つ、それは思い出の物を家づくりの中に加えた事です。奥さんのおばあちゃんが裁縫などに使っていたという一枚のカウンター材、年数が経ち色

ただきたいオススメのスペースです。キッチン道具の置き場所を細かく検討し、奥さんの使いやすい高さや場所に棚やステンレスパーなどを設けたキッチン。おばあちゃんのカウンターを使った作業台の下にも棚を設け、キッチンの内外から使いやすい位置を検討した。

のように考え、毎日の生活の中で実質的に広々と使えるスペースを考えました。広い広間でも雨の日に洗濯物を干していたり、毎日使う家族それぞれの身の回りの物などが出ていると台無しです。片付いた生活をするためには、やはりそれぞれのスペースを確保しておく事が大切で、家族皆ストレスなく生活していける方法だと思っています。

Oさんのお宅の工夫は外部にもあり、玄関ポーチの脇に屋根と板塀で囲ったスペースをつくりました。主に自転車置場として利用していますが、雨と風を防げる便利なスペースという事もあり、薪やちよつとした物の一時置場としても活躍しています。屋根付きの屋外っていいですよ。家の中に置くにはちよつと気になるけど、雨に濡れるのは困るものって意外と多くあると思います。我が家にも屋根付きの駐車場があるので、そのスペースにゴミや自転車、薪を一時的に置いたり、時には日曜大工の作業スペースとしても使います。外と中の中間的なスペースは、雨の日も暑い日差しの日も使えて便利で重宝。是非取り入れていただきたいオススメのスペースです。



住み始めてから植えたイワダレソウ。1m間隔で1ポット植えたただけだが、一年で成長し、すでにデッキ周りを埋め尽くしている。

仕様内容

家族構成	2人
敷地面積	484.83m ²
建築面積	67.07m ²
延床面積	73.27m ²
構法	JPウォール構法 (Jパネル落とし込み構法)
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼
外部建具	木製オリジナル建具 スギ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実張り 厚30mm・12mm 青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
壁	漆喰塗、青森ヒバFJ本実板張り、 クロス張り
床	杉本実板 厚30mm
内部建具	木製オリジナル建具 葛布ガラス入扉戸
キッチン	ステンレスヘアーライン天板 オリジナルキッチン
洗面化粧台	オリジナル洗面化粧台
浴室	天井・壁：青森ヒバFJ +床：サーモタイル300角貼り
設計・施工	／有限会社こころ木造建築研究所 竣工／平成28年12月



薪ストーブはダブル640CJ。使いやすさ、炉内の広さ、メンテナンスやコストなど、トータルしてバランスのとれた一台。玄関脇に設けた薪小屋には今年用のたくさんの薪が準備されていた。



ガラス窓2枚、網戸2枚、雨戸2枚が収納された戸袋。全開放してデッキと一体となった空間を楽しむ事も出来る。



木製窓の鍵に、あえてねじ込み式を選択し、こだわりを。閉めるのにひと手間かかるがこの形状が気に入り採用。

取捨選択の中で選んだ仕様や素材、心を和ませてくれるお気に入りのアイテム



ココロボお馴染みの青森ヒバとサーモタイルの木のお風呂。木の香りの良さや、メンテナンスにも優れた浴室。



タモのカウンターに陶器のボウルを埋め込んだ洗面化粧台。水栓は壁出しにし、コンパクトな造りになっている。



真鍮の素材感が特徴のフタガミ製のペンダントライト。外側や内側の形や仕上げの違いで数種類のラインナップがある。



収納を吊るしたトイレカウンター。必要なものを必要な場所に掛け、使いやすさも考えている。

家づくりの取捨選択

今回Oさんの家づくりを通して感じた事はまさに「取捨選択」。何が必要で何が不要なのかという事をじっくりと考えていった家づくりでした。家づくりの中には、敷地の形や広さの制約、また同居する家族の人数や暮らし方による制約など様々な問題があります。コストの制約は多くの方が突き当たる問題だと思います。今回のケースでも土地と建物を合わせたトータルの建築費用が一つの大きな制約となりました。建物を考える前に土地を決めてしまうケースもあると思いますが、自分たちの希望する家のコストや、その他にかかる費用を把握しておかないと後悔する事もあります。今回のOさんのケースでは、土地購入から各種諸費用、板倉構法を軸とした住まいの大きさなども事前に把握して進めていきました。ですが、あれこれと希望を積み重ねていくと当然予算オーバーとなり、何かを諦めていかななくてはなりません。土地に掛かる費用から始まり、建物の広さや構法、グレードによるコスト、薪ストーブ設置や住宅設備のグレードなど、挙げていけば様々ありますが、自分たちの暮らしに本当に必要なものは何かを真剣に話し合いました。最終的に、土地は便利さよりも暮らしやすさ、家は大きさよりも板倉構法を軸とした本物の素材にこだわり選択をしていきました。

内外左官仕事をやめて、木そのものの空間とする事や、造り付け家具なども最小限に、設備も必要なものだけとしながら一つ一つ決めていきました。大きく悩んだのは薪ストーブの導入でしたが、今後のエネルギーの自給自足や災害時の備えとしても必要だと判断し設置する事になりました。薪ストーブを通じて新しい仲間や繋がりも増え、違った意味でも価値の高い選択ができたのではないかと思います。

Oさんご夫婦と出会って1年ちよつとの家づくり、時間にしては短い期間でしたが、土地探しから建築まで実内容の濃い期間を一緒に過ごさせていただきました。暮らし始めてまだ1年半、まだまだ生活は変化していくと思いますが、お気に入りの家と物に包まれた暮らしの中でお二人の世界観を広げ、木の家と共に楽しく歩んでいくって欲しいと思います。